

会長挨拶

2020年の夏を、会員のみなさまはどのようなお過ごしでしょうか。新たに2020年を迎えた頃にはほとんど予想もなかったようなコロナ感染症拡大に伴う社会の変化が、今、世界中で起きています。研究教育活動も、学会における成果発表や情報交換も、基本的にはサイバースペースの利用に依存せざるをえず、感染症そのものへの対応はもとより、日常生活においても研究生活においても、さまざまな困難に直面しておられることと思います。まずは、会員のみなさまのご健康を心よりお祈り申し上げます。

2020年5月に、琉球大学で開催を予定していた日本英文学会第92回大会も、実施方法を変更して、7月にウェブカンファレンスとして開催することとなりました。対面式の大会開催ができなかったのは、日本英文学会としては1945年以來のことで、現在私たちがおかれている状況の深刻さを改めて強く意識せざるをえません。

しかしながら、そのような状況の中にあっても本学会は、研究活動を力強く続けておられる会員のみなさまや、学会の運営等にご尽力いただいている方々により、全国大会をはじめとするさまざまな学会活動を継承・発展させています。みなさまに改めて深く感謝申し上げます。『英文学研究』(和文号、英文号、支部統合号)や全国大会 Proceedings(オンライン)の刊行は例年通りですし、秋以降には、各地の支部大会が、実施方法を工夫して開催される予定です。また来年の全国大会は、2021年5月22日、23日に、

早稲田大学での開催を予定しています。このような状況下であるからこそ、学術研究の場としての本学会の活動を大事にしたいと考えています。

中世から近代初期にかけてペストの流行が頻繁に発生し、そういう中で人間社会の新しい形が生み出されてきたことは歴史が示す通りです。今回のパンデミックもまた、多くの犠牲を伴いながら、ポスト・コロナ社会のあり方を私たちに問うものでもあろうかと思えます。言語表現文化が有する豊かな想像力と創造性、困難な現実に対する柔軟な思考力と倦むことなき知的好奇心や活力、そういうものが存分に発揮され、会員のみなさまの研究教育活動がますます実り多いものになることを切に願っております。日本英文学会が、そのような会員のみなさまの活動拠点となるよう、これからも努めてまいりたいと考えています。忌憚のないご意見やご要望なども、お寄せいただければ幸いです。みなさまのお力添えを、引き続き、どうぞよろしく願い申し上げます。

(原田範行)

理事会および評議員会議事録から

日本英文学会事務局を会議本部とするメール会議にて、2020年5月25日-28日に理事会および評議員会が開催されました。主要な議案は以下の通りです。

1. 2019年度事業報告
2. 2019年度編集委員会活動報告

3. 2019年度大会準備委員会活動報告
4. 2019年度決算報告
5. 2020年度予算確認
6. 2021年度大会開催校の決定
7. 2022年度大会開催支部の確認
8. その他

*なお上記、事業報告、決算報告、予算、および2020年度事業計画は、詳細を学会ウェブサイト「情報公開」欄でご覧いただけるようになっています。

「8. その他」中の主な議案は以下の通りです。

- (1) 編集委員会における米文学分野委員の増員について——編集委員会の構成を、現状の英文学分野11名、米文学分野7名、言語学分野8名から、米文学分野を1名増員して8名とすることが承認されました。他分野の人員の増減はありません。この変更は2021年度編集委員会より適用されます。
- (2) 本部流動資金の恒常的な減少について——現在、日本英文学会が使用できる流動資金のうち、約61%が支部管轄の資産、39%が本部管轄の資産となっております。さらに、この39%のうち多くは振興基金の普通預金や収益事業に充てられているため、本部の活動資金として使用できる実際の流動資金は、支部管轄も合わせた流動資金全体の16.4%に留まっています。これに加えて、会員数の減少に伴い、日本英文学会の正味財産は毎年100万円近く減少しております。現在のところ、この減収の影響のほぼ全てを本部が引き受けているため、本部管轄の流動資金のみが毎年大幅に減少しています。こうした状況を受け、今後は支部財政の見直しも含めた学会運営方針をご検討いただく予定です。ご理解を賜りますよ

う、よろしく願い申し上げます。

大会準備委員会からのお知らせ

◎委員の交代

本年7月1日をもって西川健誠、不破有理、橋本安央、西田光一、吉川史子の5氏が任期満了により退任しました。後任には、笹川渉(青山学院大学)、小林宜子(東京大学)、中村善雄(京都女子大学)、吉田幸治(近畿大学)、大野英志(広島大学)の5氏が選出されました(任期は各委員とも3年)。委員長は藤巻明氏、副委員長は金山亮太氏です。

◎第92回大会の『大会 Proceedings』について

第78回大会から刊行がはじまった『大会 Proceedings』ですが、昨年より冊子体での発行を廃止し、ウェブでのみ公開する電子版(PDF版)へと移行いたしました。第92回大会がウェブカンファレンスとして7月6日から15日まで開催されたことに伴い、『大会 Proceedings』は昨年よりも1ヶ月半程度遅れての公開となりました。なお、『大会 Proceedings』に掲載される論文は、大会発表の長めの要約という性格のもので、それを大幅に加筆して、別稿として『英文学研究』に投稿もしくは新人賞に応募することが認められています。

また、『大会 Proceedings』の電子版(PDF版)への移行に伴い『支部大会 Proceedings』も、各支部ウェブサイトで開催される電子版に移行いたしました。詳細は各支部の担当者にお問い合わせください。

◎第92回大会で発表された方へ

第92回大会は新型コロナウイルス感染拡大の状況下、ウェブカンファレンスとしての開催になったため発表形態の大幅な変更を余儀なくされたにもかかわらず、32件全ての研究発表、8件のうち3件の招待発表、12部門のうち7部門のシンポジウムおよび特別シンポジウムと、多くのプログラムが実施されました。参加して下さったみなさま、ありがとうございます。7月6日から15日までの開催期間中、特設サイトに設置された質疑応答フォームを通して、ウェブ上で有意義な討論を繰り広げていただき、参加者の方々から多くのご好評をいただきました。通常の場合時間が重なってしまっで見られない研究発表やシンポジウムも、全て参加することが可能で、ウェブカンファレンスならではのメリットもあったとの嬉しいご意見も寄せられております。キャンパスや図書館が閉鎖になり資料へのアクセスが制限される中、ウェブカンファレンスの開催にご協力いただいたことに心より感謝申し上げます。著作権等の問題がない場合には、今年度もハンドアウトを学会ウェブサイトにおいて掲載させていただきたく思っております。掲載をご希望の発表者の方はぜひ事務局(etaikai@elsj.org)に電子ファイルをお送りください。どうぞご協力のほどよろしく申し上げます。

◎第93回大会の開催日・開催校等

時 2021年5月22日(土)、23日(日)

所 早稲田大学(東京都新宿区)

開催校委員 冬木ひろみ(委員長)、小田島恒志、木村晶子、都甲幸治、堀内正規、皆本智美、本山哲人、山内功一郎

支部委員 阿部公彦(東京大学・委員長)、

奥聡一郎(関東学院大学)、佐美真理(東京藝術大学)、竹内理矢(明治大学)、吉野由起(東京女子大学)

早稲田大学の先生方には大変なお仕事をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。また全国大会担当支部である関東支部の方々にも心より御礼申し上げます。大会準備委員会としても、できるかぎりのバックアップを心がけたいと思いますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

◎第93回大会のシンポジウム企画の内定

第93回大会で行われるシンポジウムの企画が下記のように内定しました。(敬称略。)第1～6部門は大会第1日(5月22日)、第7～12部門は第2日(同23日)にそれぞれ開催される予定です。

第1部門「自分語りの詩人たち——詩人の自己言及を考える」

司会・講師 竹村はるみ(立命館大学教授)
講師 圓月 勝博(同志社大学教授)
講師 大河内 昌(東北大学教授)
講師 岩田 美喜(立教大学教授)

第2部門「モビリティの詩学——交通手段の拡大と変容する空間認識」

司会・講師 吉川 朗子(神戸市外国語大学教授)
講師 佐々木郁子(龍谷大学専任講師)
講師 金津 和美(同志社大学教授)
講師 伊達 直之(青山学院大学教授)

第3部門「信用文化と英文学——

Money, Economy, Literature」

- 司会・講師 西山 徹(名城大学教授)
講師 伊藤誠一郎(大月短期大学教授)
講師 坂本優一郎(関西学院大学教授)
講師 榎本 洋(愛知県立大学准教授)

第4部門「第二次世界大戦と英語圏文学」

- 司会・講師 松本 朗(上智大学教授)
講師 河内 恵子(慶應義塾大学名誉教授)
講師 一谷 智子(西南学院大学教授)
講師 霜鳥 慶邦(大阪大学准教授)

第5部門「Interdependent Realities: Human and Non-human Worlds in Anglo-Saxon Literature」

- 司会・講師 唐澤 一友(立教大学教授)
講師 Britton Brooks(東京大学特任講師)
講師 Richard North(ロンドン大学教授)
講師 Helen Appleton(オックスフォード大学フェロー)

第6部門「手話言語研究の実際」

- 司会・講師 内堀 朝子(東京大学准教授)
講師 浅田 裕子(昭和女子大学准教授)
講師 上田由紀子(山口大学教授)
講師 今西 祐介(関西学院大学准教授)
講師 矢野羽衣子
(明晴学園非常勤講師・関西学院大学研究員)

第7部門「小説家と歴史——認識と解釈、方法と欲望」(仮題)

- 司会・講師 後藤 和彦(東京大学教授)
講師 佐々木 徹(京都大学教授)
講師 藤井 光(同志社大学教授)
講師 佐藤 泉(青山学院大学教授)

第8部門「舞台をめぐるアメリカ、アイルランドと日本——伝統と革新を再考する」

- 司会・講師 真鍋 晶子(滋賀大学教授)
講師 坂井 隆(福岡大学准教授)
講師 佐藤 容子(東京農工大学名誉教授)
講師 佐藤 里野(東洋大学講師)

第9部門「Labor Diaspora/Labor Mobility

——アメリカ文学における移動と労働」

- 司会・講師 竹内 勝徳(鹿児島大学教授)
講師 江頭 理江(福岡教育大学教授)
講師 中垣恒太郎(専修大学教授)
講師 牧野 理英(日本大学教授)

第10部門「文法化——内容語から機能語へ」(仮題)

- 司会・講師 茨木正志郎(関西学院大学准教授)
講師 保坂 道雄(日本大学教授)
講師 岩崎 宏之(宇都宮大学助教)
講師 山村 崇斗(筑波大学助教)

第11部門「認知語用論からみた言語の諸相」

- 司会・講師 大津 隆広(九州大学教授)
講師 内田 聖二(奈良大学特命教授)
講師 東森 勲(大阪経済法科大学教授)
講師 盛田 有貴(奈良女子大学助教)

第12部門「物語が動き出すクラスへ——(検定)教科書をもっとおいしく」(仮題)

- 司会・講師 浅野 享三(南山大学教授)
講師 青谷 優子
(朗読家・フリーアナウンサー)
講師 倉林 秀男(杏林大学教授)

◎第93回大会招待発表

第93回大会の招待発表講師は次の各氏に内定しました。(敬称略。50音順。)

遠藤 不比人(成蹊大学教授)
太田 一昭(九州大学名誉教授)
奥 聡(北海道大学教授)
川津 雅江(名古屋経済大学名誉教授)
北村 一真(杏林大学准教授)
巽 孝之(慶應義塾大学教授)
道家 英穂(専修大学教授)
中尾 佳行(福山大学教授・広島大学名誉教授)

◎第93回大会の特別シンポジウム企画

第93回大会2日目(5月23日[日])の午後には、大会準備委員会企画の特別シンポジウムとして、「明治以後の日本におけるシェイクスピア受容」(仮題)が開催される予定です。河合祥一朗氏(東京大学教授・日本シェイクスピア協会会長)の司会で、他の登壇者については現在検討を進めております。詳細は来春発行の『第93回大会資料』および学会ウェブサイトに掲載いたします。どうぞご期待ください。

◎第93回大会研究発表の募集

第93回全国大会の研究発表を募集しております。学会のウェブサイト(<http://www.elsj.org>)上でご確認のうえ、奮ってご応募ください。ウェブ上のフォーマットを利用して、ウェブから直接応募することが可能ですので、どうぞご利用ください。詳しくは、学会ウェブサイトをご覧ください。応募の締め切りは11月1日(必着)です。

◎シンポジウムのアイディア募集について

シンポジウムのテーマに関する提言は随時受け付けておりますので、事務局(etaikai@elsj.

org)までお寄せください。ただし、提案者は参加することはできませんのでご注意ください。寄せられたアイディアはデータベース化し、大会準備委員がシンポジウムを企画立案する際の参考資料として活用します。

◎大会ワークショップについて

第86回大会よりワークショップが導入されておりますが、第93回大会には応募がありませんでした。応募要領は学会ウェブサイト(<http://www.elsj.org>)に掲載しておりますので、奮ってご応募ください。第94回大会(2022年開催)ワークショップの応募締め切りは、2021年4月末日です。

編集委員会からのお知らせ

◎投稿状況

『英文学研究』は、和文号(12月刊行)、英文号(3月刊行)の年各一冊という刊行形態となっており、それに応じてそれぞれ投稿締切が設定されておりますが、昨年9月1日締切の英文号には22本の投稿論文が寄せられました。また、本年4月1日締切の和文号には12本の投稿論文が寄せられました。

◎第43回新人賞応募状況

第43回新人賞論文の応募受付は、去る4月30日をもって締切となりました。応募論文総数は、3篇(英文学0篇、米文学3篇、英語学0篇)です。応募者のみなさまには心より感謝申し上げます。

今年度は残念ながら、第一次銓衡を通過した論文はなく、新人賞、佳作とも、該当論文なしということに決定いたしました。全体および各分野の選評は『英文学研究』和文号第

97巻に掲載されます。

◎優秀論文賞について

この賞は『英文学研究』（和文号、英文号）に掲載される論文の中から、特に優れた論文に授与されるものです。『英文学研究』第97巻においては、残念ながら「該当論文なし」となりました。

◎投稿規程・新人賞応募規程の変更

会員みなさまに、充実した研究成果を論文として積極的に投稿・応募していただくために、来年度投稿規程の変更を行います。主な変更は下記の2点です。これらは、通常論文の投稿規程と新人賞応募規程に等しく適用されます。また、規程の英語版についても、相応の変更が行われます。

- (1) 現行では、「過去に発表されたもの、投稿の時点でほかに発表される見込みのもの、もしくは審査中のもの」は投稿できませんが、「既に口頭などで発表したものは、その旨明記してある場合は審査の対象となりえます」となっています。研究成果の発表形態の多様化に鑑み、今後は口頭発表に限らず、「ウェブサイトなどで改良の目的を示した上で閲覧に供した原稿の改訂稿」も投稿可能となります。こうした場合には、必ず公開場所を明記してください。
- (2) 上記の変更に伴い、カバーレターにも口頭発表やウェブサイトなどの情報を明記していただくこととなります。詳細は本年12月刊行の和文号掲載の投稿規程でご確認ください。来年度以降投稿される方は、ご注意くださいませう、よろしく願いたします。

事務局からのお願い・ご報告

◎支部大会資料統合版の刊行中止について

例年、9月発行のNewsletterは、支部大会資料統合版の巻末に掲載する形でお届けしていましたが、2020年度の支部大会資料統合版の刊行は中止いたしました（そのため、今回は本Newsletterのみお送りしております）。新型コロナウイルス感染症の収束が見えないなか、支部大会の延期や実施形態の変更を検討している支部が多く、確定した情報を掲載することが不可能であると判断したためです。ご不便をおかけして恐縮ですが、支部大会の開催状況については日本英文学会ウェブサイト (<http://www.elsj.org/>) から「支部情報→支部ウェブサイト」をご覧ください。直接各支部のウェブサイトをご確認ください。

◎今年度の大会について

ご存じのとおり、2020年5月16日（土）・17日（日）に琉球大学にて開催予定であった第92回全国大会は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、対面での開催を断念し、ウェブカンファレンスとして実施されました。7月6日（月）－15日（水）にかけ、日本英文学会ウェブサイト (<http://www.elsj.org/>) 上に第92回全国大会のコーナーを開設し、7つのシンポジア、1つの特別シンポジウム、32の研究発表、3つの招待発表の原稿・資料に、会員がアクセスできるように致しました。質疑応答もウェブ上で行いました。

これは、日本英文学会にとって前例のない試みでしたが、急な発表形態の変更にもかかわらず、登壇者のみなさまからは充実した原稿・資料をご提供いただきました。さらには、

参加者のみなさまからも、実に興味深く有益なご質問をいただき、第92回大会は盛況のうち閉幕となりました。

ウェブ開催では研究者同士が自由に交流することは難しかったかもしれませんが、対面開催であれば同時に参加できなかったはずの研究発表・シンポジアのすべてに参加が可能となり、また会場への移動を伴わないために世界各地から当日会員を含む会員のみなさまが参加してくださいました。

開催期間中、登録手続きなどで一部の会員にご迷惑をおかけした点につきまして、お詫びいたします。今回のウェブカンファレンスに関するご意見・ご提言などありましたら、事務局(ejimu@elsj.org)までお寄せください。

また、ウェブカンファレンス版の大会資料(プログラム)がご入用な方は、本会ウェブサイト(<http://www.elsj.org>)の「全国大会」からサブメニュー「過去の開催校」を選んでいただきますと、第92回大会(ウェブカンファレンス)プログラムへのリンクが表示されます。

シンポジア・研究発表・招待発表でご発表いただいたみなさまに篤く御礼申し上げます。また、例年のない事態への対応をご検討いただいた2019年度の大会準備委員会のみなさまにも、この場を借りて御礼申し上げます。さらに、実施はかないませんでした、5月大会に向けて精力的に準備をされていた琉球大学の開催校委員および九州支部の支部委員のみなさまにも、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

◎来年度の大会について

すでに学会ウェブサイトでもお知らせしておりますように、来年の第93回大会は2021年5月22日(土)・23日(日)の両日に、早稲田大

学戸山キャンパスにおいて開催されることが決定いたしました。開催校をお引き受けくださった早稲田大学のみなさまに心より御礼申し上げます。

例年通り、大会初日(5月22日[土])の夕刻には、会員のみなさまにご参加いただく懇親会を予定しております。懇親会の予約方法につきましては、2021年3月刊行予定の『第93回大会資料』ならびに学会ウェブサイトにて、あらためてお知らせいたします。

なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては、第93回大会も対面での開催が困難になる可能性があります。全国大会の開催に関する最新情報は、学会ウェブサイト(<http://www.elsj.org/>)に掲載されますので、定期的にご確認をお願いいたします。

◎全国大会期間中における託児所の開設について

開催校のご尽力により、来年度全国大会期間中には、託児業者に委託する形で大会会場内に託児所が開設される予定です。詳細や申し込み方法等は、追って学会ウェブサイトで公開いたします。

◎会費納入と刊行物発送について

日本英文学会の2020年度会費は、例年通り、一般会員8,000円(本部会費7,000円+支部会費1,000円、ただし複数支部に加入の場合は1支部ごとに1,000円追加)、学生会員5,000円(本部会費4,000円+支部会費は一般会員に同じ)、協賛会員10,000円です。退会届が出されない限り、会費の納入が滞っても、2年間は引き続き刊行物をお送りいたします。2年度分の会費振込用紙が同封されている方々は、会費滞納が2年目になっています。今年度中に2年度分の会費の納入がなかった場合

は、2021年3月末をもって会員資格を失うこととなります。資格を失ったのちも、未納分の会費については支払い義務があり、その分をお支払いいただかない限り再入会できませんので、ご注意ください。

会費の納入状況が不確かな場合には、メール(ejimu2@elsj.org)・電話・ファックスなどで、事務局までお問い合わせください。重複して会費を支払われますと、払い戻しなどに余分な手数料がかかってしまいますのでご注意ください。

会費の納入忘れを避けるためにも、「郵便局自動払込みによる会費引き落とし」のご利用を強くお勧めしております。郵便局(ゆうちょ銀行)に口座をお持ちでしたら、事務局からお送りする書類に記入して、ご返送いただくだけで簡単に利用できます。領収書も、ご請求があれば学会より発行いたします。利用ご希望の方は、メール(ejimu2@elsj.org)・電話・ファックスなどで、事務局までご連絡ください。

なお、66歳以上の会員を対象とした終身会員制度を設けております。詳細につきましては、学会ウェブサイト(<http://www.elsj.org/>)の「入会案内」から「終身会員制度ご案内」をご覧になるほか、事務局までメール(ejimu2@elsj.org)・電話・ファックスなどでお尋ねください。

◎会員著書案内について

2012年4月より、会員のみなさまから事務局宛てにご著書を献本いただいた場合、学会ウェブサイトに著書紹介を掲載できるようにしております。著書は会員独自の研究成果に限り、訳書等は対象外とさせていただきます。掲載期間は、出版から2年間です。また、著書案内に掲載された著書については、『英文学研究』編集委員会において書評対象の候補として検討させていただきます。

掲載をご希望の方は、以下の情報を事務局までメール(ejimu@elsj.org)で、WORDの添付ファイルにてお寄せください。

1. 著書のタイトル、出版社、出版年
2. 著書の内容の梗概1,200字程度
3. 目次

この会員著書案内欄には、2020年7月末の時点で21冊が紹介されております。ぜひご覧ください。

◎海外研究者招聘後援事業について

日本英文学会では、2011年6月1日より、日本における英文学研究の国際化促進のために、海外研究者招聘後援事業を実施しています。詳細は学会ウェブサイト(<http://www.elsj.org/>)の「情報公開」から「海外研究者招聘後援事業規程」をご覧ください。同規程に該当する企画をお持ちの団体による応募を歓迎いたします。どうぞ奮ってご応募くださいますようお願いいたします。応募する団体は申請書類を事務局宛てメール(ejimu@elsj.org)にてお送りください。

◎学会ウェブサイトの再構築について

2020年7月1日より、学会ウェブサイト(<http://www.elsj.org/>)のデザインを一新いたしました。トップページの上部に主要項目へのリンクを集め、スマートフォンでの閲覧にも対応するようになりました。これまで通り、会員著書案内、教員公募情報、他学会・講演会等の開催情報も掲載しております。また、「会員コラム」という項目も設けました。まだ内容はありますが、いずれ会員相互の交流に資する場にしていく所存です。新ウェブサイトを未見の方は、ぜひ一度ご覧ください。

◎次回のNewsletterについて

次回のNewsletterは、2021年3月中旬刊行予定の『第93回大会資料』の巻末に掲載される予定です。それまでの間にお知らせすべき情報は、随時、学会ウェブサイトに掲載いたしますので、定期的なご確認をお願いいたします。

◎その他

本年5月末をもって、前任の張替涼子編集担当書記が、さらに7月末をもって、前任の岩田美喜事務局長と吉村理一大会準備担当書記が退任されました。それぞれのご所属大学での研究教育業務が多忙を極めるなか、英文学会の運営のために献身的にご尽力いただいたことに感謝いたします。

なお、第92回全国大会のウェブカンファレンスへの移行により、開催時期が5月から7月へと延期になったため、岩田前事務局長と吉村前大会準備担当書記には、例年よりも2ヶ月長く任期を務めていただきました。お二人は、前代未聞の事態を前に臆することなく、ウェブカンファレンスの実現に向けて適確な判断を示し、連日の膨大な業務をすさまじいまでの勢いと細やかな心配りでこなしてくださいました。それどころか、これを機に、かねてより懸案であったウェブサイトの再構築までも実現させてしまいました。なお、ウェブ関連では、2019年度より新任で事務局メンバーとなられた小林広直ウェブ管理者の貢献も、非常に大きいものでありました。この方々の身を粉にする働きがなければ、日本英文学会が今日のような形でコロナ禍に対処することは不可能でした。長文になり恐縮ですが、将来への記録のためにも、この点は明記させていただきます。

この交代に先立って、4月より新たに、田中裕介(事務局長補佐)、牟田有紀子(大会準備担

当書記)、市川千恵子(編集担当書記)の3名が事務局に入り、昨年度の事務局長補佐から事務局長に異動となりました武田将明、昨年度より引き続き会計担当補佐を担当する川崎明子、ウェブ管理を担当する小林広直とともに、6名の体制で本年度の事務局運営に携わることになりました。任期は来年度の全国大会が終わる5月末までとなります。引き続き2名の有能な事務職員に支えられ、原田範行会長のもと、力を合わせて努めていきたいと考えております。至らぬ点多々あることかと懸念しておりますが、会員のみならずにおかれましては、ご指導・ご協力のほど、どうぞよろしくをお願いいたします。

日本英文学会事務局

武田将明・田中裕介・川崎明子・
市川千恵子・牟田有紀子・小林広直